

指導資料

国語 第139号

鹿児島県総合教育センター
平成29年4月発行

対象
校種

幼稚園 小学校 中学校

高等学校

特別支援学校

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの
授業改善に関する考察
— 国語総合の授業実践を通して —

次期学習指導要領改訂に向けての重要な柱の一つとして、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の方向性が示されている。そこで、国語科の授業において、生徒に必要な資質・能力を育成するための工夫について、実践例を基に紹介する。

1 中央教育審議会答申から

平成28年12月21日付の中央教育審議会答申において、次期学習指導要領改訂の方向性が示された。その柱の一つが、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくための、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。

同答申においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善の視点として、以下の3点が示されている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働

かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

(下線は筆者による。)

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点とは、全く新たな取組として行われるべきものではなく、国語科においては、これまでに図られてきた言語活動の充実と方向性を同じくするものであり、それらを更に改善・充実させていくための視点であることに留意する必要があると述べられている。

さらに、「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で実現することが求められている。

そこで、「国語総合」において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から読む能力の育成をねらいとして構想・実践された単元例を基に、授業の工夫について述べる。

2 「国語総合」における実践例

本実践は、読む能力の育成を目指して、高等学校第1学年で実施したものである。

(1) 単元名 登場人物の心情を読み味わおう

(2) 教材名 『伊勢物語』 「筒井筒」

(3) 言語活動 本文や和歌に基づいて登場人物の視点で相手に思いを伝える文章を書く。

(4) 単元の目標

ア 歌物語を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。(関心・意欲・態度)

イ 歌物語に書かれた人物の心情や和歌に込められた思いなどを理解し、自分の考えを深めている。(読む能力)

ウ 和歌の修辞法について理解し、詩情を味わうとともに、歌物語における和歌の役割を理解する。(知識・理解)

(5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
歌物語を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている。	① 登場人物の心情と行動を表現に即して理解している。 「C 読むこと(1)ウ」 ② 登場人物の心情と自分の思いを比較することで、理解を深めている。 「C 読むこと(1)ウ」	① 和歌やその修辞法及び助動詞を中心とした古典文法について理解している。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(4)〕 ② 我が国の言語文化への興味・関心を広げている。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(7)〕

(6) 単元の学習計画

時	過程	学習活動	
1	導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習課題を設定する。 「登場人物の視点で、相手に思いを伝える文章を書こう」 ○ 教科書教材を読んで、単元の見通しをもつ。 ○ 贈答歌の手法について理解する。 <p>【読む能力①】 【知識・理解①】</p>	見 通 し
2	展開Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の状況を理解し、心情を読み取る。 ・ 女が快く送り出した理由を考える。 ・ 男が河内の女のもとへ行かなくなった理由を考える。 <p>【読む能力①】 【知識・理解①】</p>	知 識 ・ 技 能 の 活 用
3	展開Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を基に、登場人物の心情をまとめる。 ○ 登場人物の「男」、「女」いずれかの視点で、相手に思いを伝える文章を書く。 <p>【読む能力①②】</p>	
4	展開Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の視点で各自が書いた文章をグループ内で鑑賞し、代表者が全体に発表する。 ○ 和歌の意味を踏まえ、「男」、「女」の心情についての理解を深める。 <p>【読む能力②】</p>	
5	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習教材である『伊勢物語』の各章段も想起しながら、歌物語の性格について考える。 ○ 歌物語の各章段において和歌がどのような役割を果たしているのかについて考え、和歌とそこに込められた詠み手の心情について理解する。 <p>【関心・意欲・態度】 【読む能力②】 【知識・理解②】</p>	振 り 返 り

(県立鹿屋高等学校 岩元直子教諭の構想、実践を基に作成)

3 本単元における「国語総合」の指導事項

本単元は、国語総合の指導事項のうち、「C 読むこと」のウ「文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。」を取り上げたものである。この指導事項については、『高等学校学習指導要領解説国語編』（平成22年）に述べられているように、生徒が主体的に文章全体を表現に即して読み味わうことができるようにすることが大切であり、教師主導による文章の内容や表現の説明になったり、あまりにも細部を分析的に読むことに偏って文章全体の味わいを損なったりしないように留意する必要がある。

また、本指導事項は、年間を通して取り扱う機会の多いものであるため、既習単元との系統性を踏まえて、段階的に深めていくことが重要である。

4 主体的・対話的な学びを実現する言語活動の設定

育成を目指す言語能力を効果的に身に付けさせるために、本単元においては、「本文や和歌に基づいて登場人物の視点で相手に思いを伝える文章を書く。」という言語活動を設定した。このことにより、生徒たちは、登場人物の心情を表現する文章を書くために、本文中の表現から登場人物のどのような心情を解釈できるかという課題意識を明確にし、主体的に読んでいくことが必要となる。

また、単元の第4時においては、各自が書いた文章をグループ内で鑑賞し、代表者が全体に発表するという活動を設定した。代表者を選出する際は、本文中の表現を根

拠にして心情が述べられているかどうかという視点で話し合うように指示した。視点を明確にして話し合わせることによって、自らが書いた文章と級友の文章とを比較し、読み取った心情の異同や、心情をより分かりやすく伝えるにはどう表現すればよいかについて協働的に考える様子が見られた。

このように、主体的・対話的な学びを実現できる言語活動の設定を工夫することが大切である。

5 学習の自覚・方向付けを促す学習過程

まず、第1時の導入の段階において、これまでに学習した『伊勢物語』の各章段を想起させ、歌物語の性格や和歌の修辞法について確認した。次に、表現に即して登場人物の心情を読み取り、登場人物の視点で相手に思いを伝える文章を書くという、本単元における学習課題を全体で確認し、学習の見通しをもたせた。

第2時と第3時では、登場人物の状況を理解しながら心情を読み取る学習を行い、登場人物の人物像を想定して相手に思いを伝える文章を書かせた。単元の学習の中心となる第二段落での心情の読み取りに関しては、女が男を快く送り出した理由と、男が河内の女のもとへ行かなくなった理由に着目するように指示して考察させた。次に紹介するのは、「男」の視点で書いた生徒の表現である。

表1 「男」の視点で書いた生徒の表現

私が河内に行った時、すました顔をしていたあなたを見て、私は疑ってしまっていました。私はやはりあなたが好きです。一緒にいたいのです。新しい妻のもとへも、もう行かないことにします。どんなに貧しい生活を強いられたとしても、あなたのもとにいます。

※下線部は、本文の表現に即して記述された部分

第4時では、グループを編成して各自が書いた文章を鑑賞し合った。さらに、各グループで代表作を選出し、学級全体で発表会を行って、感想を交流させた。他グループの発表を聞く際には、ワークシートを配布し、印象に残った言葉や気付いたことを記述させ、心情が伝わる表現になっているかを三段階で相互評価させた。

単元のまとめの第5時では、本単元の目標である「読む能力」の向上と、伝統的な言語文化としての和歌や歌物語の理解についての自覚を促すことをねらいとして、既習単元も想起させながら振り返りを行い、歌物語における和歌の役割について考えさせ、本単元の学習の価値付けを図った。

6 身に付けたい力を明確にした評価の実際

国語科の基本的な考え方は、言語活動を通して、指導事項を身に付けさせることである。言語活動を行うこと自体が目的とならないためにも、生徒の言語活動をどのように評価するのかを具体化しておく必要がある。そこで効果的なのが、当センターが提唱する「判断基準」の設定による指導と評価である（詳細は、当センター『研究紀要』第119号を参照）。

本単元では、重点的に指導した「読むこと」の指導事項ウに基づく評価規準②について、「判断基準」を次のように設定した。

表2 「判断基準」の設定

評価規準（「思考・判断・表現」）
登場人物の心情と自分の思いを比較することで、理解を深めている。「C 読むこと(1)ウ」
思考、判断に基づく評価内容（評価の対象）
選んだ登場人物の視点で書いた文章
判断の要素
ア 本文の表現に即した登場人物の心情理解
イ 自分自身の解釈

判断基準B（おおむね満足できる状況）

ア 登場人物の心情を、本文中の表現を根拠に理解している。
イ 自分ならどう感じるかという視点で、登場人物の置かれた状況や心情を解釈して表現している。

次に紹介するのは、本文中で女が男に詠んで贈った、「風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ」の和歌を基に、生徒が書いたB状況の表現と、その後に「和歌の修辞法を踏まえる」という新たな視点を与えてA状況への深化指導を行ったものである。

表3 「女」の視点で書いた生徒の表現

B状況の表現
私は、アあなたが私のことを思って河内の国へと通っていたこと、ちゃんと分かっています。イあなたにばかり辛い思いをさせてしまっでごめんなさい。今ではあなたを送り出したこと、少し後悔しています。だって、アあなたのことが心配で心配でたまらないのですもの。イ何をしてもあなたのことが気になってしまいます。
イ私があなたに望むことはたった一つ。どうか、無事に帰ってきてください。
和歌の修辞法を踏まえたA状況の表現
(略) だって、こんな真夜中に、あの恐ろしい巖田山を一人で越えていらつしやるであらうアあなたのことが心配で心配でたまらないのですもの。(略)
※ 波線部において、和歌の内容をよりよく踏まえた表現がなされている。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業は、特定の型に基づいて行うものではない。授業改善の視点を踏まえて、必要な資質・能力が育成されるように、指導と評価を工夫して行うことが重要である。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説国語編』平成22年6月、教育出版
- 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成28年12月21日

（教科教育研修課）